

I 事業期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日(第17期)

II 事業の実施状況

I 特定非営利活動に係る事業

(1)【事業名】～子どものためのコミュニティ・スペース～
ワークレッシュ 及び
子育て拠点施設における一時預かり事業

【実施場所】ファンズガーデン

(菜萁木6丁目985番地の1)他

【実施日数】293日

【利用人数】延べ2,525名(前年度1,640名)

【対象者】0歳～18歳

【方針】

日中から夜間までの間や学校の長期休業日に、保護者が就労、育児・介護、疾病等により、子どもを保育することが出来ない場合などに、子どもたちに遊びと学習環境と、保育スタッフの配置のもとに安全で自立的な生活の場を提供する。

また、子どものためのコミュニティ・スペースとして、レクリエーションや学習、生活全般を通して、子ども同士のコミュニケーションの機会を提供する。子ども・保護者からの種々の相談に応じる。さらに、地域活動に積極的に参加し、会員相互のみならず地域との交流を促し、地域福祉力の増進に寄与する。

◆自主事業

別紙「CS部門報告書」参照

◆出張保育

料金：保育従事者1人あたり1,200円/30分～(2018年4月料金改定)

対象年齢：就学前の子ども

「何かを始めたい子育て中のあなたのセミナー」一時保育

10月19日・11月9日・30日・12月14日 10:00～12:00

[依頼主]大阪狭山市男女共同参画推進センター(きらっとぴあ)



◆地域イベントへの参加

- 4月29日 狭山池まつり 団体PR「ヨーヨー屋！」
11月10日 はばたきフェスタ「ヨーヨー屋！&あてもの」
平成31年1月13日 新春こどもまつり「カレーうどん」

◆講師派遣 他

- 大阪狭山市プレイセンター推進事業

テーマ：交流会「親同士の親睦を深める」

- 5月9日 「きらきらきっず」川向地区会館
- 5月11日 「チェリービーンズ」東村公民館
- 5月28日 「ヤミー！！」自由丘会館
- 6月8日 「こぐまの会」東池尻会館
- 6月12日 「げんきっず」狭山地区会館

- 大阪狭山市子ども・子育て協議会 大阪狭山市児童福祉審議会
委員（燈田礼子 平成31年3月31日まで）

- 職員研修・全体研修

組織基盤と個人のスキルとその連携強化を図っていくことを主眼とし、前年度と同様、部門毎で各自の課題とニーズに合わせた研修・講座で学んだ。全従業員対象の研修は、計3回実施した。部門や役職を問わず、ロールプレイ（役割演技）による実習や模擬体験を積むこと、外部で受講した研修内容を共有することに注力した。スタッフの自主勉強会「朝カフェ」では、業務外で見聞・経験した学びや気づきを伝え合い、濃密な時間を共にすることが出来た。他法人が主催する障害児放課後支援学習会等への参加や、府下の児童養護施設他への視察訪問、継続して他法人からの協力も得られている。なかでも、1年間のメンタルヘルス支援プログラムを導入したことは大きな支えとなった。（後述）

月例会議や自主研修の際には「同じ釜の飯を食う」ことを取り戻しながら、スタッフ自身が生活経験を共に積み上げ、分かち合う機会を増やした。日常生活や通常業務においても、常に気づきと成長の場と機会が大いにあるのだということに改めて思い知った。2019年度中は、初の職員研修旅行を企画している。



【収入】（自主事業）2,511,928円 （一時預かり事業）5,926,250円

【支出】（自主事業）1,585,806円 （一時預かり事業）6,068,163円

(2)【事業名】大阪狭山市地域子育て支援拠点事業



【対象者】子育て中の親子

【主な実施場所】ファンズガーデン(茱萸木6丁目985番地の1)

【内容】

1、子育て親子の交流、集いの場の提供

①つどいの広場 ファンズガーデン

月～土 10時～16時

- ・開設日数:276日
- ・参加組数:4,797組(前年度:3,857組)
- ・参加者数:10,839人(前年度:8,586人)

②設定行事

- ◆「ふれあい遊び」「父さんと一緒」
- ◆「水遊び」:7、8月の概ね週2回実施。

③サークル活動

- 「ベビーマッサージ」「心と体が喜ぶ食サークル」
- 「Let's チェンジ隊」



2、子育てに関する相談・援助の実施

1の開設時間内及び登録オリエンテーション時における個別懇談を実施。

3、地域の子育て関連情報の提供

1の広場における情報コーナーの設置。

行事カレンダーの発行。「子ども・子育て関連図書コーナー」の設置。

ブログ「Work+Creche! COMMUES」、Facebookにて情報発信。

4、子育て及び子育て支援に関する講習の実施

①子育てなんでも相談 毎週金曜日 10:00～12:00

②子育て支援に関する講座

- ・全10回
- ・延べ135名参加
- 「からだリフレッシュ」「子どもの歯の健康について」「親子でおやつを作ろう」
- 「子どもに起こりやすい事故の予防と応急手当」「上手に撮ろう!子どもの写真」
- 「陶芸体験」「『しつけ』って何?～ほめて育てるとは言うけれど～」
- 「産前・産後の骨盤ケア～私の身体どうなってるの?～」
- 「『普通』ってなに?～子育ての中の『普通』を考えてみましょう～」
- 「『子どものつぶやきから始まる性教育』～子どもの?(はてな)に困ったことないですか～」

5、異世代間の交流機会の提供

対象者:地域の子育て中の親子(母親・未就園児に限らない)、地域住民

- ・実施回数:9回
- ・参加人数:841名
- ・実施場所:ファンズガーデン、副池オアシス公園
- 「手作りおもちゃを作ろう」「おでかけ合同ひろば@副池」

「みんなでおやつを作って食べよう」「夜店屋ごっこ」
「夏まつり」「折り紙でクリスマス飾りを作ろう」「クリスマス会」
「合同ひろば ～もちつき体験～」 「合同消防訓練」

※健康講座「姿斉」全24回

※委託販売

ワークくみのきのクッキー(常設)、拓共同作業所ロバのパン(月1回)

※たそがれ時のコミュニティ・スペース「おむすび村」

- ・実施回数:12回
- ・実施日時:毎月第4木曜日 17時から20時
- ・参加人数:延べ704名

6、その他

◆防災・避難訓練の実施

- ・実施回数:2回
 - ・参加人数:123名
- (保育部門、児童発達支援・放課後等デイサービス部門の利用者含む)

【収入】8,174,249円

【支出】8,847,847円



(3)【事業名】児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス



【実施場所】旧くみの木幼稚園内(茱萸木6丁目985番地の1)

【実施日数】285日(休日:日曜、国民の祝日に関する法律に規定する休日、
8/12~8/17、12/28~翌年1/4、3/31)

【開設時間】平日:12時30分から18時30分まで
土曜・長期休暇中:10時から18時まで

【対象】(H31年3月現在)5歳~16歳の児童23名

【利用人数】延べ2,885名(23名/22家庭)

1日平均10.1名(定員10名・欠席加算分含まず)

【目的】障害のある学齢期の児童の健全な育成を支えるため、身体及び精神・環境に応じて、日常生活における基本的動作や知識技能の習得、並びに集団生活に適応するための指導訓練等を提供し、生活能力の向上と地域社会との交流を図る。

【内容】子どもの発達過程や特性、適応行動の状況を了解した上で、一人ひとりの置かれている状況や願いに即した個別支援計画を作成し、発達支援等を行った。

下記の2)基本活動以下の活動を複数組み合わせることで日常のスケジュールを構成し、1日30分の集団療育プログラム(パーソナル・アクティビティ)を毎日実施した。



1) 個別支援計画の作成

全児童について年間で2通作成し、下記の具体的支援を進めた。

2) 基本活動

ア 自立支援と日常生活の充実のための活動

- (1) 基本的日常生活動作や自立生活を支援する
[仲間を意識したグループ遊び・柔軟体操・始めの準備・手洗い・学習・掃除・持ち物管理・あいさつ・言葉遣い・送迎ルール・交通マナー・身だしなみ・身体の清潔・外食・プール・食事マナー・買物・後片付け・作物と生物の世話・PC/タブレット操作・個別支援計画に基づく外出]



- (2) 子どもが意欲的に関われる遊びを通して、成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育む
[チャレンジカードによる目標管理と自己評価・目標やコメントの発表、写真や作品の掲示・誕生月のお祝い・身体/体力測定・終わりの会での1日のふりかえり・個人のリクエストによる遊具や教材の導入・懇談・子どもアンケートの実施・自己/他己紹介]



- (3) 学校・保護者との連携を図りながら、将来の自立や地域生活を見据えた活動を行う

[フェスまる（大阪狭山市地域自立支援協議会主催）への参画・他事業所訪問・ケース会議への出席・他事業所の視察受入・保護者交流会・個人懇談・避難訓練]



イ 創作活動

[季節行事（七夕・クリスマス・忘年会・餅つき等）・楽器（電子ピアノ）・裁縫・絵画・木工・畑作業・調理等の体験]

ウ 地域交流の機会の提供

[おむすび村・新春こどもまつり・初詣・十日戎・ふれあい広場（第七小）・地藏盆・ワークレッシュのなつまつり・はばたきフェスタ・サンネットフェスタ（第三中）・保育部門やつどいの広場部門の行事（合同ひろば等）・他の放課後等デイサービス事業所の行事への参加等]

エ 余暇の提供

[自由時間の室内遊び（アナログゲーム・コミュニケーションゲーム）、屋外遊び（ジョギング・サッカー等）、遠足/外出（たけの

こ狩り・結の里・花の文化園・泉佐野漁協市場・ふれあいの里・花見・池散策・野外クッキング・ミカン狩り)、個別の休養時間と場所の確保]

3) 介護サービス 更衣、排泄等の身体介助

年齢に関わらず、可能な限り同性介助を行った。

4) 送迎サービス 5,179件(1日平均18.1件)

事業所が所有または借用する車両により、障害児の自宅又は学校と事業所との送迎を行った。専属ドライバーは登用せず、児童の直接支援に携わる指導員が運転手を兼任している。送迎時のマナー、配慮すべき視座について、ロールプレイ実習を重ねて学んだ。

【収入】36,178,026円(V評価益含む)

【支出】30,504,100円(V評価費用含む)



2 その他の事業 実施せず

III 事業の成果と課題

(1) ~子どものためのコミュニティ・スペース~ワークレッシュ 及び

子育て拠点施設における一時預かり事業

今年度はこれまで以上に幅広い層のニーズに応えることができるよう、開設時間帯を19時まで延長し、保育利用料金をより安価に改定した。また、異年齢・多様な層に居心地の良い場を提供するため、保育室の環境整備を行った。延べ利用者数は2,525人(前年度1,640人)となり、子育て支援拠点施設における一時預かり事業がスタート(H24)してからは、毎年確実に利用者数を増やし今年度は最高人数で、売上は昨年の1.3倍(100万円増)となった。

昨年度から始まった幼稚園の低年齢児(3歳児)受け入れや延長保育の拡充などにより、キッズ・ファンズ※1の利用は減少(昨年度は540件)の一途をたどるかに見えたが、今年度は利用数778件となり、最盛期(H27年度699件)の利用数を超えた。0歳から2歳の保育利用が増えたことが要因の一つと考える。公共の施設の受け入れが充実したとはいえ、まだまだ自分たちが果たすべき役割があることを実感した。

キッズ・ファンズからビイバ!※2へと、切れ目のないつながりを継続するために、活動内容を利用者と共に企画するなど、利用者の参画意識を高めるよう努めた。2016年の最盛期(194件)を超えた利用数(250件)となった。子どもたちの成長とともに、ビイバ!のリーダー的役割を担っていた世代が、次の世代へと一旦バトンタッチする時期に来ている。新規のメンバーを繋ぎながら、異世代の子どもたちが地域で育つ場として定着させていく。

開設時間帯を延長したことにより時間外利用は減少したが、休日の利用は9件（昨年1件）、食事提供346件（昨年310件）、送迎協力1,265件（昨年934件）と、さらなるニーズの高まりに応えている。

利用料金の値下げにもかかわらず、売上額が増加した。利用しやすい制度を整えたことに加え、保育に携わる我々の取組みへの信頼が高まっていると捉える。

ここで得た多くの縁とつながりを力に、担い手である自分たちは、さらに多様なニーズに答える経験値を養い発揮できるよう研鑽し続け、子ども・子育て応援、支え合いのコミュニティづくりを進めていく。

※1 2歳以上の子ども対象の保育コース。平日 10:30~14:30 (H30.4 から 10:30~15:30)

※2 4歳以上の子ども対象の保育コース。小学生や幼稚園の休日や土曜日 10:00~17:00 (H30.4 から 10:30~16:30)

(2) 大阪狭山市地域子育て支援拠点事業

H30年度は、H29年度から始まったおむすび村や合同広場、父親参加企画を通して、子どもたちの育ちを見守る誰もが集える場づくりに注力した。6月より「父さんと一緒!」という企画（月1回土曜）を立ち上げ、日頃、参加を得にくい父親の参加を呼びかけた。子育てのどんな点で悩んでいるのか、どんなことを子どもとしてみたいかなどを聞きとりながら場づくりし、気軽に参加できるきっかけ作りに努めた。少しずつではあるが、父親と子どもでの来訪、一家そろって広場に来る新たな家庭も増え始めている。また、祖父母の参加という広がりも見えている。今後も継続していく。



広場の参加者や保育利用者に「つどいの広場」の活動についてどう感じているのか、年度末にアンケートを行った。60家庭からの回答が得られた。ふれあい遊びやクリスマス会の企画は好評であった。家庭では経験しにくいもちつき体験を大勢の人と共にできたことを喜ぶ声や、異年齢の子ども同士の関わりを体験ができるのが良いという意見もあった。要望としては、施設・設備の充実（30件）、親子の交流あそび（27件）、他の親子と交流できるイベント（24件）、子育てに関する講座（20件）、異世代間交流（13件）、子育て相談（12件）、サークルの援助（12件）などが上がった。この回答から、親子の関わりはもちろんではあるが、他の人と関わり繋がりながら子育てしていきたいという考えや、子育てをしながらも講座やサークル活動などで自分の学びの機会や楽しむ時間を大事にしていきたいという思いが感じられた。結果を参考にしながら、次年度も親同士が繋がる場、共に子育てを楽しむ企画を参加者と作っていきたい。

サークルルーム「さわらび」の運営は開始から5年を経て、1日平均8.5名（昨年度は7.7名）の利用があった。現在は個人的なグループの利用が多い。サークルの利用もあるが積極的に人を募集しているところは少なく、利用が固定化してきている。参加者の潜在的なニーズを引き出せるような関係性を築き、サークル活動の立ち上げのサポート、運営においての具体的なアドバイス、サークル主催者同士の交流の機会を持つなど、子育て中の母親の活躍の場を提供できるよう注力する。

当法人が広場運営を始めてから14年が経過し、昨年の参加者数は過去最高で一万人を超えた。リピーターの多さに加え、広場の参加者層は厚みを増している。第15期となる次年度以降も、地域住民やボランティアの協力を得ながら、働く自分たちも地域の一員としての自覚を高め、より一層地域に開かれた場作りに努めると共に、子育てをしながら安心して暮らしていけるコミュニティの関係を紡いでいくことに尽力する。



(3) 児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス

● 主要な療育の取組と成果

5期目は「道具をつかう」～生活家電・調理器具・大工道具・農具・デジタル機器～
《PAテーマ》言葉・気持ち・伝える・考える

一昨年来、「生活の力」を外の世界に出ても使えるか、自分の気持ちを知り、人に助けてと言えるか、という課題意識をもって取り組んできた。今までは、自分の考えや気持ちを発するだけだったのが、「なぜ」を自分や人に問いかけ、深め、つなげていくことが出来るようになっていく。人と一緒に取り組むことや外出の機会を増やししながら、特に「言葉でのコミュニケーション」を重視した日常の流れの中で、確実に、伝える・考える力は養われてきた。これまでも、言葉による自己表現と自己主張、体験と交流から得られる達成感と安心感によって自己決定を獲得できるよう仲間づくりや対話を促進してきたが、特筆すべきは、自分の「希望」を見据えて表現し始めていること。ただ今の気持ちだけではなく、自分の中のイメージや時間がつながり、将来の希望をもって生活設計ができていくという道筋が見えた。同時に、表現しても良いことがわかると、喜怒哀楽の選択肢が増え、表情がより豊かになっていった。

次いで、「自分から」誘ってできていく友だちとの輪、放課後の自由な遊び時間と放課後の集団を、子どもたち自身が獲得してきていることは、言葉で伝え合おうとしてきたことの成果の一つである。人と協力して何かをやり遂げた達成感と共に、失敗して学ぶという機会も多々あった。人を気遣うことばかりでなく、嫌なことやアカンことも共有し体験する、失敗も受け入れられる柔軟で強かな力を養っていききたい。

第二次性徴や思春期の心と身体の変化については、個別や集団での学びを適宜取り入れ、イメージや言葉だけでなく、話し合いや実際に練習して知り得ていけるよう、機会を重ねている。

第6期2019年度のテーマは、「比べる」。自分と人との違いを知り、物の質を比べることは、世界を拓き、つかんでいくためにまず必要で大切な視座である。優越感や劣等感とは違う「個々の価値や役割を得ていきたい」という、6年目のチャレンジとなる。共に過ごし、地域に出て、人と自分や内と外を比べることで、「人にお願ひしよう」「自分はこっちにしよう（あっちはやめておこう）」、或いは「自分には出来ないが、あの人には出来るからあの人に頼んでみよう」など、役割分担や提案ができるようになればと思う。こうして、生活や思考の回りごとができ、できないことは手伝ってもらおうという選択肢を発揮出来れば、より暮らしやすくなるだろう。すで

に、「誘ってみたら?」「こう言ったらどう?」と、大人が誘導することは少なくなり、子どもたちが自分で考えてやってみる、試してみればいい、という場に成りつつあるが、まだまだ奥に潜んでいる子どもたちの力を刺激し、心の繊細な機微にも触れていけたらと思う。

以下にこれまでの療育テーマと学びの特徴を記しておく。

第1期 2014年度「自分を知る・お互いに知り合う」

日常の挨拶やマナー行動が定着していったことによって、自分や他人への関心や自覚の芽生え、コミュニケーションの広がりや深まりを生み出した。

第2期 2015年度「自分の身体を扱えるようになる」

【遊びが学び】のコンセプトに沿った成果を獲得しつつある。集団の遊びを楽しみ、自分の気持ちを自覚し、表現出来るようになってきた。他者への関わり合いの力と意欲も発現。

第3期 2016年度「衣食住に密着した暮らしの体験」

興味と役割を持って生活を楽しんで営めるように、仲間と、または一人で。【暮らしがしごと】食べること・着ることにまつわる様々な所作を循環させ、生活力へと結んでいく。

第4期 2017年度「食とコミュニケーション」「自分を知る・人に伝える」

色々なものを食べ、時に作り、新しい味を知りながら、言葉や行動を引き出す術とゆとりを持てるよう共にチャレンジした。支援される自分・支援される立場から、支え合い助け合う自分たちへ。

第5期 2018年度「道具をつかう」



● 運営体制・周辺環境

児童指導員加配と共に、福祉・介護職員処遇改善加算を継続した。直接支援および事務の体制は堅牢と言えるが、日常のアセスメント、モニタリングなどの記録の業務量にやや行き詰まりを感じたため、各フォーマットを年度末に効率化・簡便化した。2018年4月の障害福祉サービス報酬改定にもとづき、下半期から指標該当児の延べ利用日数が5割をわずかに下回ったことにより区分1を外れた。2019年度は、想定通り2割近くの報酬減額を見込まざるを得ない。直接支援に携わる指導員にも予算や実績状況を示し、本事業部全体で、内外の情勢や課題に対する意識と展望を広げていくようにしている。

年度中の新規契約は、児童発達支援の2名で、現利用児童の弟妹と、就学に伴って保育部門からの利用継承を希望する家庭。小1生から高校2年生までの幅広い多様な子どもたちが集うこととなり、目指してきた理想的な小集団となる。9名もの「1年生」が揃う年度でもあり、彼らの接する新しい仲間と環境に触れていくことで、新鮮な上半期を迎えられると予測している。

しかし、近隣の放課後等デイサービス事業所が豊富に出揃っていることで、新規の利用希望の問合せは殆ど無いままである。周辺の乳幼児の保育や子育て支援環境は概ね充足したと見えるが、その分、小学生（とりわけ高学年生）以上の地域の居場所は広がりにくく、ニーズや困りごとだけでなく存在そのものがかえって見えにくくなっている人たちがいることも慮っている。私たちは、「本人主体」と「子育ての仕方支援」「地域の暮らし」を主軸に、どのような状況にある親子であっても、生き方や暮らしを常に応援しているという姿勢でいたいと思う。児童・保護者との協調・信頼関係に留まらず、他事業所や関係機関との相互の協力関係を保ち、大阪狭山市地域自立支援協議会（障害児通所部会）での取組も重ねながら、遠回りなようでも焦らずに受発信を続け、次代に必要とされる事業や取組に結んでいきたい。



IV 理事会その他会議の開催状況

● 理事会

- ・ 8月2日(木) 10時～13時 於) A' ワーク創造館 (大阪市浪速区木津川)
H30年度修正予算案、H32年度以降の事業展開について
- ・ 10月10日(水)18時～21時 於) ゆずの小町 (大阪市中央区難波)
H30年度上半期実績まとめ、融資審査の経過について
- ・ 2019年3月4日(月) 18時15分～18時30分
於) Cafe&bar Charge (大阪市中央区内淡路町)
主たる事務局の移転の件

● 第16回通常総会

平成30年6月22日(金)10時15分～12時 於) ファンズガーデン
正会員総数 10名 (本人出席8名・委任状出席2名)
<議事>

- 1) 出席確認、議長選出
- 2) 第1号議案：第16期事業報告(平成29年度)
- 3) 第2号議案：第16期収支決算報告(平成29年度)
- 4) 第3号議案：第17期事業計画(平成30年度)
- 5) 第4号議案：長期借入金について
- 6) 第5号議案：第17期収支予算(平成30年度)
- 7) 第6号議案：議事録署名人の選任に関する事項



● 臨時総会

- ・ 8月27日(月) 19時15分～22時 於) フェイス
H30年度修正予算・事業計画の承認について
- ・ 2019年1月17日(木) 10時～10時30分 於) フェイス
定款変更について

- 連絡会議 <会議メンバー：監督職・指導職・主任・事務局> ※実施1回のみ

5月29日(火) 11時30分～13時30分

於) 韓国料理マダン (大阪狭山市岩室)

- 全体研修等

- ・リーダーのためのメンタルヘルスマネジメントセミナー

<対象：指導職以上、事務局員>

講師：山崎友丈氏 (マインメンタルヘルス研究所代表)

第1回 5月28日(月) 9時30分～12時 於) フェイス

第2回 6月15日(金) 同上

- ・メンタルヘルス基礎研修「コミュニケーションと自己理解」<対象：全従業者>

7月4日(水) 9時30分～12時 於) フェイス

※株式会社マイン/マインメンタルヘルス研究所(東京都渋谷区)と年間契約し、「メンタルヘルス支援プログラム」(研修の他、面談・カウンセリングを含む)を進めた。

- ・全体研修①「偏見」をテーマに・思春期のからだ性と、相談対応

<主催：虐待防止委員会>

2019年1月17日(火) 10時45分～12時20分

於) フェイス指導訓練室

- ・全体研修② 対人援助職の構え・ロールプレイ(ケガ対応・アサーティブな関わり)

2019年2月26日(火) 10時15分～12時30分

於) フェイス、ファンズガーデン中庭



以 上